

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立小松小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

本年度の全国学力・学習状況調査では、国語、算数のいずれの教科においても、全国や滋賀県の平均正答率を上回る結果となりました。日頃の授業や家庭学習に真面目に取り組んできた成果が表れていると考えています。また、質問紙調査では、「学校に行くのは楽しい」「困っている人を助きたい」「人の役に立つ人間になりたい」といった項目において非常に高い肯定的回答が見られました。特に、「人の役に立つ人間になりたい」については全員が肯定的に回答しており、思いやりや社会性が着実に育っていることがうかがえます。

《強み・弱み》

本校の子どもたちの大きな強みは、学習に対して前向きに取り組む姿勢です。調査では、「全力で取り組んだ」と全員が回答しており、最後まで粘り強く考えようとする姿が結果にも表れています。また、友達と意見を交流しながら学ぶことを大切にしており、互いの考えを認め合いながら学習を進める力が育っています。

学習面では、国語において無回答がほとんど見られず、最後まで諦めずに取り組む姿勢が見られました。また、複数の情報を関連付けながら考える力や、見通しをもって学習を進める力も身に付いています。算数では、学習や学校生活で培ってきた計画性や見通しをもつ力が発揮され、与えられた時間の中で考えながら問題に取り組むことができていました。

一方で、学習面の課題としては、国語において複数の情報の中から必要な情報を選び、自分の考えを分かりやすく整理して表現する力に伸びしろが見られました。また、算数では元の大きさの見方「1」をイメージしながら分数の量感をとらえ、数量の関係を実感を伴って理解する力を具体的な活動を通して高めていく必要があります。

生活面では、人間関係や学校生活への満足度が高く、「学校が楽しい」と感じている子どもが多いことは本校の大きな強みです。「困っている人を助きたい」「人の役に立つ人間になりたい」と考える児童が多く、思いやりや協力する心が育っています。読書を好む児童も多く、家庭においても子どもたちの学びを支えていただいていることがうかがえます。

【指導の充実に向けて】

(1) 「読む力」を育てる指導の充実

国語では、必要な情報を選び、自分の考えをまとめて表現することに課題が見られました。その基盤となる読む力を育てるため、読み聞かせや「先生本読ンデー」、図書室の活用などを通して、読書に親しむ機会を充実させていきます。また、様々な文章や資料に触れながら、内容を正しく読み取る力を育成していきます。

(2) 見通しをもって学ぶ力を育てる指導の充実

本校の子どもたちは、見通しをもって取り組む力を身に付けています。この力をさらに伸ばすため、学習のめあてやゴールを明確にした授業づくりを進めます。教師の声かけや学習の進め方を工夫し、主体的に学ぶ力を育てていきます。

(3) 実生活と結び付けた学びの充実

分数や測定、お金の計算など、生活と関わりの深い学習では、体験的な活動を取り入れながら理解を深めていきます。また、国語をはじめ各教科において、情報を選ぶ・まとめる・発信する活動を充実させ、学んだことを実生活や社会で活用できる力の育成を目指します。

今後も、家庭・地域との連携を大切にしながら、一人一人のよさや可能性を伸ばし、学力と豊かな人間性の両面を育む教育活動を進めてまいります。